



春のオススメ本紹介

YA担当より

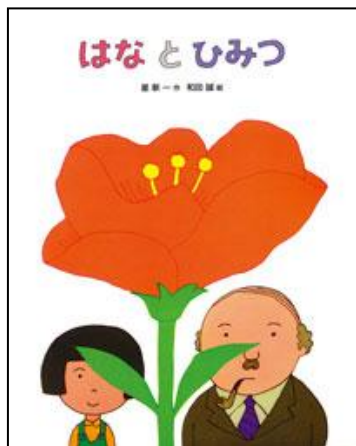
春は出会いと別れの季節で、なにかとそわそわしますね。新学期や新生活のはじめにまず

ヤングコーナーで新しい本、新しい自分を発見してみませんか？



①

「はなとひみつ」
星 新一／作
和田 誠／絵
フレーベル館
YA書架 E7



「地面の下で草や木の世話をするもぐらがいたら…」そんなふうにはなこちゃんが思いながら描いたもぐらの絵。風に飛ばされて、空を旅し、鳥に運ばれ、ある国の秘密の研究所までたどり着きます。それを見た研究所長は、国からの命令の凶面だと思込み、もぐらのロボットの開発をはじめてしまいます。

何の気なしにはなこちゃんが描いた絵から生まれる意外な展開に、あっと驚く楽しさを見つけられるおはなしです。

②

「春ものがたり」
野上 暁／編
日比野 光希子／画
偕成社
YA書架 913E



春は出会いに別れと、ちょっぴりときどきしたり、切なかったり、様々な感情が交錯する季節ですね。

短編と詩十五編からなるこの本には、不思議なお話、恋のお話、楽しいお話、こわいお話、心があたたまるお話など、様々なテーマで描かれたお話や詩がたくさんつまっています。

この本を読んで、頭のなかに春の情景を浮かべてみませんか。

③

「ヒートアイランドの虫たち」
藤原 幸一／写真・文
あかね書房
YA書架 E7 ムラサキ



外の暖かさを感じる春、ですが、都市ではヒートアイランド現象によって冬が暖かくなり、今まで越冬できなかった虫が越冬し増えたり、そのために逆に減ったりする虫がはじめています。

普段気に留めることも少ない、小さな生き物たちに、地球環境などの大きな問題が見える事や、人の活動により「生き方」を変える虫たちに、人もまた「生き方」を変えられている、ということまで考えさせられる一冊です。

④

「藤子・F・不二雄
「ドラえもん」はこうして
生まれた」

筑摩書房編集部／著
筑摩書房
YA書架 2897



マンガを買うことも難しかった1940年代に藤子不二雄と2人で始めたマンガ家としての活動から、独立後ドラえもんの著者となり活躍した晩年までを描いた1冊。

赤塚不二夫や石ノ森章太郎ほか、著名なマンガ家たちを輩出したトキワ荘での暮らしや、人生の転機となった手塚治虫との出会いなど、多くのエピソードと時代背景も描かれており、児童マンガに込めた熱い思いが伝わります。

巻末には、設問や参考図書がわかりやすく紹介されており、更に興味を深めることができる伝記のシリーズです。